

2014年

9月

中国四国農政局  
広島地域センター  
福山地域センター

# News Letter

## 「広島サーモン」新たなブランドへの期待

海面養殖による県産ニジマス（トラウトサーモン）が復活し、今年5月に広島市内で「広島サーモン」の名称で初出荷されました。

県内のニジマス海面養殖は平成元年から15年まで行われていましたが、当時は需要が少なく途絶えていました。今年度、県内企業の連携で廿日市市の淡水養殖業「万古溪（ばんこけい）養魚観光」が種苗生産を、大崎上島町の「内浦水産」が幼魚から成魚までの海面養殖を、広島市西区の「広島水産」が流通を担当し復活させました。

ニジマスは海水で育てると短期間で数倍の大きさに育ちます。しかし水温が高いと養殖できないため、150グラムの幼魚を12月から5月終わり頃まで養殖し平均900グラム（約6倍）にして出荷しました。

内浦水産によると、輸入物より小ぶりのサイズですが、鮮度が高く、あっさりとした脂と、こりこりした歯ごたえが特徴とのことです。

今年度は試験的に約1トンの出荷を行いました。来年に向けてさらに生産体制を拡充し、3月から5月末までに約30トンを出荷して新ブランド「広島サーモン」の定着を目指します。

また、今年は広島サーモンを溪流へ放流し、9月1日から廿日市市の小瀬川水系七瀬川において、フライ・ルアー釣りも楽しめるようになりました。



広島サーモンの海水養殖場（(有)内浦水産）



放流前の計量風景（万古溪養魚観光（株））



広島サーモン（上）と同年齢のニジマス（下）

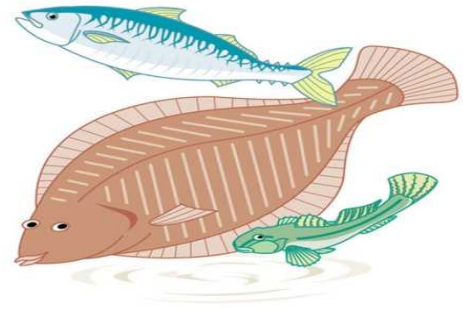
万古溪養魚観光株式会社  
広島県廿日市市虫所山74  
TEL (0829) 72-0223

有限会社内浦水産  
広島県豊田郡大崎上島町大串725  
TEL (0846) 64-3815

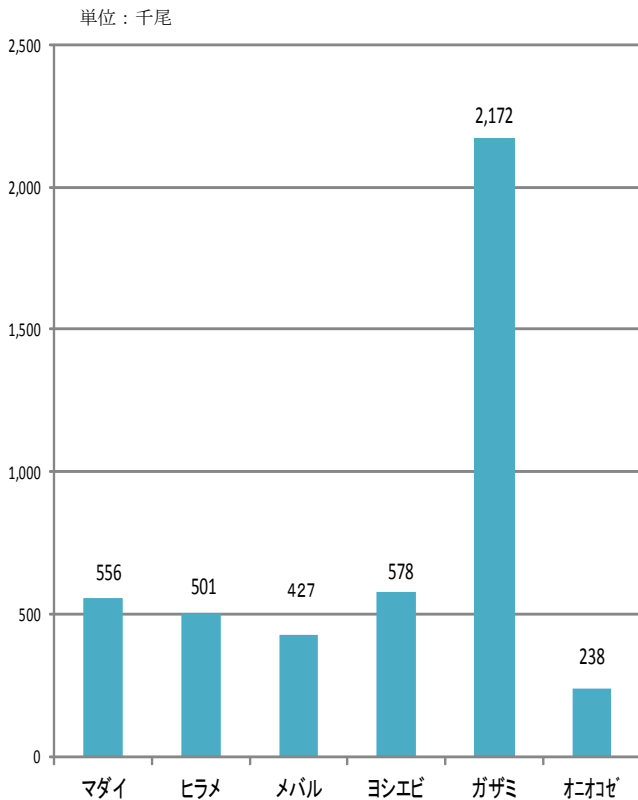
# 広島県の水産種苗放流数量

近年は、藻場や干潟が少なくなって稚魚も育ちにくくなり、放流しなければ漁獲を維持できない水産生物が増えています。

広島県では、主に漁協の手により種苗の放流が行われ水産資源の確保に努められています。

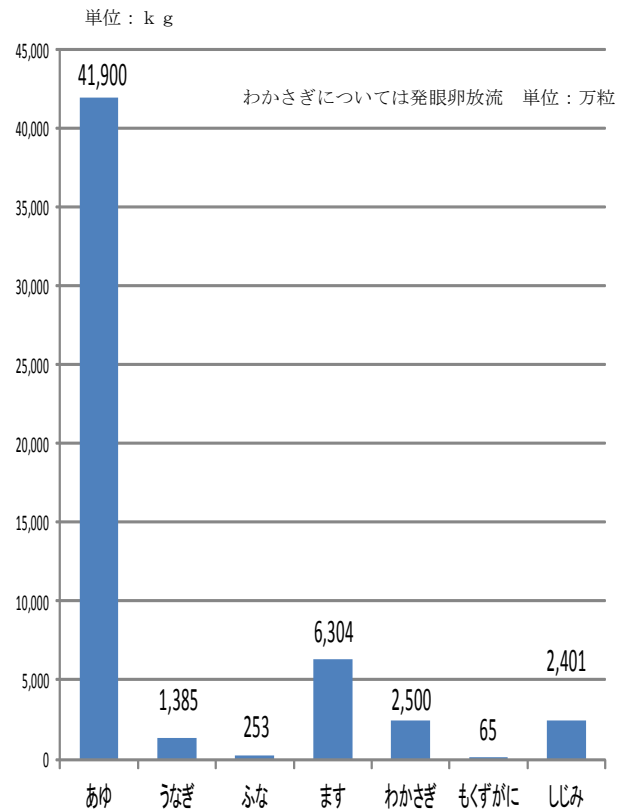


平成24年度海面種苗放流実績



※広島県農林水産局水産課調べ

平成25年度内水面種苗放流実績



農林業センサス

平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。

- 農林業経営体調査（調査期間：平成26年12月中旬～平成27年2月末）
- 農山村地域調査（調査期間：平成27年4～6月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>

編集：中国四国農政局

広島地域センター 〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 TEL(082)228-5840 FAX(082)228-5817  
広島合同庁舎2号館6階

福山地域センター 〒720-0017 福山市千田町2-5-30 TEL(084)955-1951 FAX(084)955-1953

＜農政局HP＞<http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆各種メールマガジンを配信中（登録はこちらから） <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>